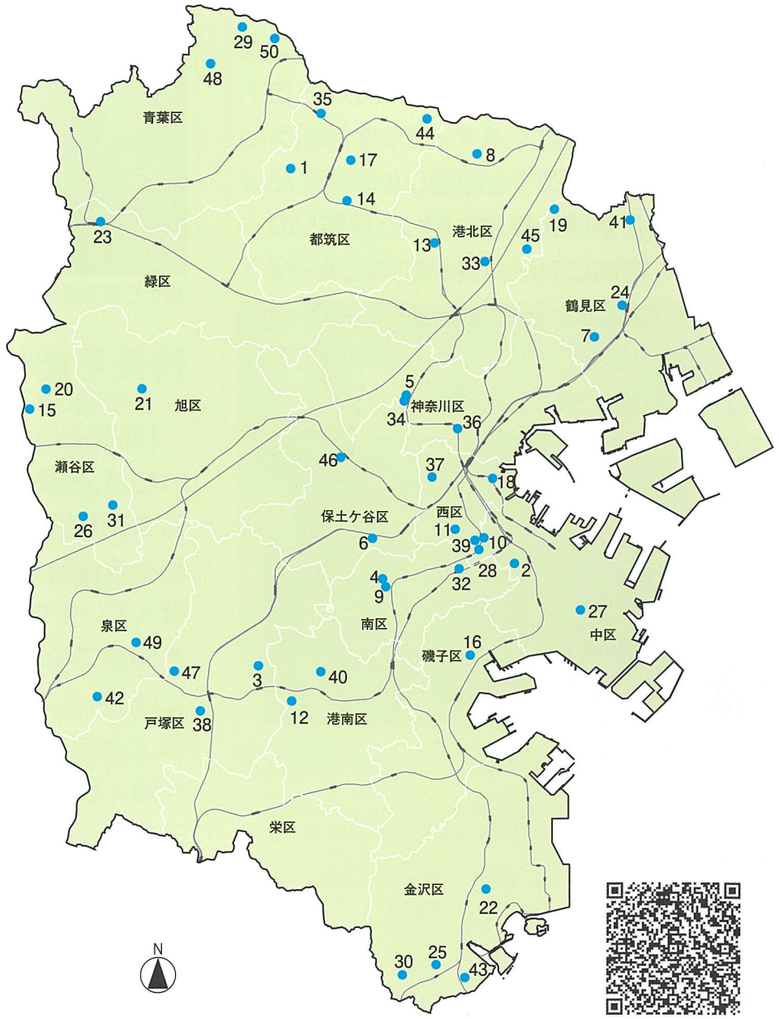
「ヨコハマ市民まち普請事業・整備事例一覧」～広がるまち普請の輪～

整備提案名

1　花*花　案々水やり
2　横浜寿町ホステルビレッジ街化事業
3　バス停前傾斜地の緑化事業
4　こどもの遊び場、ビオトープ作り
5　地域のコミュニケーション基地「うささきハウス」づくり
6　東海道保土ヶ谷宿　松並木・一里塚再創造プロジェクト
7　岸谷公園を中心としたまちの防災・防犯拠点の再整備
8　高田東小学校における雨水貯留・浸透施設のセットとビオトープ整備による流域学習推進事業
9　登り窯付属施設及び周辺環境の整備
10　(仮称)日ノ出町・初黄地区ライトアップ地域浄化構想
11　不便な盆地も雨水・湧き水で大変身!
12　車いす使用者の為のリフト設置と相談ルームの増設
13　地元企業・地主と市民による安全・安心のみちづくり
14　荒磯川源流の日本庭園・清流復活
15　境川上量河川沿い道路に桜並木の名所づくり
16　地域に愛される浜マーケットを次世代に残していこう!
17　都筑民家園に市民に親しまれる本格的な「茶室」を整備
18　高島中央公園におけるファミリーガーデン計画
19　鶴見川大曲、花と緑と水の広場づくり
20　農業体験を通して高齢者と地域住民が交流する場づくり
21　森に隣接した旭高校外周道路のコミュニティ空間化
22　西柴団地商店街の空き店舗を利用した地域活性化プラン
23　長津田の樹木をり活用したアートワークプロジェクト
24　地域ぐるみで地域開放型コミュニティサロンをつくる
25　地域に根差す技術を生かしふるさと大道の風景をつくる
26　樹木と湧水を活かしたホタルの里山づくり
27　本牧山頂公園里山あそびプロジェクト
28　初黄・日ノ出町地区に集いの広場を!階段広場をつくる
29　美しが丘第六公園集会所建設整備計画
30　地域力醸成の拠点となるコミュニティーサロンの整備
31　阿久和北部見守り合い拠点・大きな傘「みまもり広場」
32　新観光地域活性構想歴史と文化のある街・お三の宮通り
33　夢・街のナビゲート大倉山コンシェルジュパーク
34　瀧乃川源流の湧!優!悠!防災井戸作り
35　中川駅前中央遊歩道のルネッサンスプロジェクト
36　町の防災拠点づくり
37　女性の笑顔で人と人をつなぐ地域応援プロジェクト
38　戸塚に新しい親子の居場所「ひろばカフェ」をつくろう
39　カサコ　ー丘の街の地域の軒下/世界の軒下ー
40　美春台内道路の愛称入り案内板と複合コミセン整備事業
41　矢向・江ヶ崎 歴史資料室の建設と世代間交流の場作り
42　湧水を住民の憩いの場に!子どもたちに自然体験を!
43　住民同士の輝き「人材マップ」を中心にした拠点づくり
44　東山田工業団地に案内板、掲示板、会社マークを設置
45　太陽とコミュニティで耕すもろおかエコステーション
46　上星川の「ひと」「まち」「こと」のふれあい広場
47　地域のインテリジェンス「ぷらっと 谷矢部」づくり
48　＃Building Together 太陽ローズハウス
49　中田のえんがわ「宮ノ前テラス」多世代交流スペース
50　「百段階段」を中心とした美しが丘地区遊歩道の整備

(H18～H30年度整備事例)



整備事例の
詳細はこちら

地域まちづくり課 "公認" Facebook
「ヨコハマ市民まち普請ひろば」

Facebookに登録していなくても
誰でも見られます。

まち普請ひろば　検索　クリック

既にFacebookに登録されている方は、是非「いいね!」をよろしくお願いします。
(Facebook ページの運営は協働事務局の横浜市住宅供給公社が担当しています。)

ヨコハマ市民まち普請事業とは…。

地域住民の思いを形にすることでコミュニティの拡がりをつくることを目的として、市民提案によるハード整備を支援しています。1年を通して行われる、2回の公開コンテストを通過した提案に対して、翌年度最大500万円の整備助成金を交付しています。参加団体が相互支援できる仕組みづくりにも取り組んでいます。

詳しい情報は、横浜市のウェブサイトでご覧いただけます。　まち普請　検索　クリック

事前相談も随時受付中!

まちづくりの情報を募集しています。

まちづくりに関するイベントや参加者募集、地域で行っているまちづくりの取組などの情報を下記までお知らせください。
メールマガジン「ヨコハマ人・まち」で広報のお手伝いをします。

≪情報提供のあて先≫
横浜市 都市整備局 地域まちづくり課
Email : tb-machizukuri@city.yokohama.jp

「ヨコハマ人・まち」のメールマガジンは地域まちづくりに関心のある方々への転送、お誘い大歓迎です。
メールマガジンの配信申し込み・停止は、ヨコハマ人・まち　検索　クリック

令和２年１月発行

ヨコハマ人・まち
ーまちの人がまちをつくるー

vol. 57

発行：横浜市 都市整備局 地域まちづくり課
TEL 045-671-2679　FAX 045-663-8641　Email：tb-machizukuri@city.yokohama.jp
取材・編集：横浜市住宅供給公社

1P～7P　防災から広がるまちづくり
8P　「ヨコハマ市民まち普請事業・整備事例一覧」～広がるまち普請の輪～

防災から広がるまちづくり

「天災は忘れたころにやってくる」昔はこう言って、準備を促したものです。しかし最近は被害を忘れる暇もなく、地震、台風が襲来し、各地に大きな被害をもたらしています。

横浜に住む私たちにとっても、こうした災害は他人事ではありません。横浜は、丘陵や谷戸によって形成され、狭い道や坂道が多いことから、いざというときには大きな被害に見舞われる可能性があります。

天災は避けられませんが、被害を最小限に食い止めることはできます。そのためには事前に地域で多くの知恵を集めて、活用できるようにしておく必要があります。

そこで、今回は、みんなで知恵を出し合い、災害に強いまちをつくろうとしている二つの地域をご紹介します。

いろいろな制度をフル活用

住みよいまち・本郷町３丁目地区協議会

危険度お墨付きの場所

中区の閑静な住宅地である本郷町３丁目は、生垣など緑も多く、湧水や井戸があるなど、自然と歴史が感じられる地域です。尾根の上からベイブリッジが見える見晴らしの良さがある一方、木造の火に弱い住宅が密集しており、道路は狭く見晴らしの良さゆえに崖や急な坂、急階段も多く、地形にも防災上の課題を抱えています。

住民にとって「この地域は二つの谷戸があり、地震などで火が出たら、あっという間に火が回るだろうと、消防署のお墨付きの地域」（住みよいまち・本郷町３丁目地区協議会鎌倉会長）のようです。

住みよいまち・本郷町３丁目地区協議会 鎌倉会長

住みよいまち・本郷町３丁目地区協議会

本郷町３丁目は第一町内会と第二町内会から構成されています。横浜市「いえ・みち・まち改善事業（旧事業）※1」の対象地区として選定されると、二つの町内会は2006年に「住みよいまち・本郷町３丁目地区協議会（以下、「協議会」）」を設立しました。単独の町内会では解決が難しい防災上の問題や広域的な課題に対して、本郷町３丁目の防災上の課題を知りつくした二つの町内会が協力し、住みよいまちをつくりあげたいと防災によるまちづくりの取組を始めました。

2008年、協議会は地区の課題をまとめ、まちの目標を定めた「防災まちづくり計画」を策定し、横浜市地域まちづくり推進条例に基づく地域まちづくりプランの認定を受けました。協議会では、実際にまち歩きを行って防災マップを作成し、全戸配布したり、狭い道路にガードレールやカーブミラーの設置を行政に依頼するなどして、積極的に本郷町３丁目ならではのまちづくりに取り組んできました。その後、2011年の東日本大震災が大きな契機となり、「防災のことだけはしっかりやろう！防災は命！」が本郷町３丁目の合言葉になりました。

※1「いえ・みち・まち改善事業（旧事業）」
防災上課題のある密集住宅市街地における、防災性の向上と住環境の改善を図り、住民と行政だけでなく、専門家やNPO等も交えた三者協働で取り組む、横浜市独自の事業です。地域が目指すまちづくりを「防災まちづくり計画」として取りまとめ、その実現のために、国の住宅市街地総合整備事業の導入のほか、地域まちづくり支援制度や既存の制度を活用していきます。平成26年４月１日より「まちの不燃化推進事業」に移行しました。

防災のことだけはしっかりやろう！

町内にガス山公園の整備が行われている中、東日本大震災が起こりました。協議会では改めて「防災のことだけはしっかりやろう！」と一致団結し、ガス山公園を防災の拠点と位置づけ、他都市の事例の勉強や見学会を重ねました。震災の翌年の2012年に完成したガス山公園には、地域まちづくり支援制度の補助金を使って、かまどベンチや防災倉庫などの災害に備える施設を整備しました。

一方、施設を整備するだけではなく、実際に道具や設備を活用するには、日ごろの訓練や安否確認が重要となることから、道具や設備を常に点検しておくといった日々のチェックに加え、防災訓練の時に、安否確認も行うことにしました。「私は大丈夫！」ということがわかるように黄色のタオルを目印に出し、それを班長がとりまとめる、という仕組みをつくったのです。今では、全世帯の半数以上が参加する訓練となっています。そうした活動をまとめ、2017年には協議会として自主防災マニュアルを発行し、全戸配布しています。このように横浜市の中でも、先進的な防災まちづくりの活動を続けてきました。

まちの防災広場

こうした取組の上に、2019年2月に誕生したのが、まちの防災広場です。

ガス山公園は、本郷町３丁目第二町内会の地域にあり、その防災倉庫には協議会の多様な防災用品が完備されています。ところが、第一町内会側には協議会の防災倉庫をおくスペースがありませんでした。せめて第一町内会側の場所にも防災倉庫だけは欲しいと、以前から空き家の活用などを検討していましたが、なかなか実現には至りませんでした。

防災訓練の様子

防災訓練の様子

そんな中、第一町内会と第二町内会の間に一軒の老朽化した空き家があり、協議会で活用について検討しました。活用にあたっては問題も山積みでしたが、一つひとつ乗り越え、地権者さんから無償で土地を借りることができることとなりました。横浜市の老朽建築物の除去に関する補助※2や「身近なまちの防災施設整備事業※3」を活用して、防災広場を整備することができたのです。広場には防災倉庫のほか、マンホール型トイレ、湧水利用タンク、上下水道などが整備されました。「身近なまちの防災施設整備事業」による防災広場の整備は、横浜市内で初めてとなります。

※2「建築物不燃化推進事業」
火災による被害が特に大きいと想定される地域（重点対策地域）等において、古い建築物を除却する場合や、燃えにくい建築物を建てる際に、除却工事費や新築に係る工事費（耐火性能強化相当額）の一部を補助します。

※3「身近なまちの防災施設整備事業」
地震による火災の危険性が高い「重点対策地域（不燃化推進地域）」及び「対策地域」を対象に、共助による地域防災力の向上を図るため、自治会町内会等が行う防災施設（避難経路、防災広場、防災設備）の整備等に対し、補助を行います。

広場からの眺めは良好

防災広場は、災害時には地域防災活動拠点として活用され、平常時には地域のコミュニティづくりの場所として役立ちます。今では中学生が夕暮れ時におしゃべりをする場となっているなど、住民の憩いの場所になりつつあります。

協議会のなかに二つの拠点が整備されたことから鎌倉会長は「これまではガス山公園だけで実施していた避難訓練を、二か所で同時開催するなど、連携して行いたい」と考えています。

防災まちづくりによるまちの活性化

順調に防災まちづくりをすすめてきた協議会ですが、もちろん課題もあります。「防災まちづくりを一緒に行ってきた人たちが、高齢になり、活動に参加できなくなっている」と鎌倉会長がおっしゃるように、高齢化はこのまちでも課題です。

湧水利用タンク

一方で、「防災に力を入れてから、避難訓練に子どもや若い人も参加してくれて、地域の雰囲気がよくなってきた」、「本郷町3丁目は安全なところだから、若い人が転居してくるというように、防災でまちが発展すると良いね」と防災をきっかけとしたまちの活性化に期待を寄せています。

「横浜の防災まちづくりに関する制度は、本当に充実している。うちの地域もいろいろな制度を活用して、充実させてきた」と鎌倉会長はおっしゃいます。危険度のお墨付きをもらったまちだからこそ、地域の人たちは知恵を出し合い、横浜市の制度もフル活用し、仕組みをつくってきました。そして、その努力は施設の整備に結び付きました。これからも、知恵を出し合い、世代交代などの課題を乗り越えていきそうな住みよいまち・本郷町3丁目地区協議会です。

まちの防災広場

目指すのは、持続可能な松ケ丘

松ケ丘自治会

見晴らしの良さは危険と裏表

神奈川区に位置する松ヶ丘は、横浜駅から近い小高い丘に広がった静かな住宅地です。丘陵地なので高低差が大きく、古くからの住宅地であるので狭隘道路も残っています。そうした地域だからこそ、自治会として災害に対する備えをどうするか、何をすべきかを検討していました。

中でも長年の課題だったのが、自治会館の建設です。横浜駅西口に近い住宅街で空地が少ない松ヶ丘では、活動の拠点として自治会館建設が悲願だったのです。ようやく土地を確保でき、自治会館の建設が決まった時、東日本大震災が起きました。そこで改めてまちぐるみで防災面の課題を解決しようと考えるようになったのです。

松ケ丘防災隊活動要領

震災後1年をかけて「松ケ丘防災隊活動要領」を制定しました。その中で要援護者がどこにいるか把握しておくこと、地域防災拠点が遠いので、自治会館をいっとき避難場所として整備する必要がある、という二つのアイデアが出されました。

要援護者の安否確認はどの地域でも課題ですが、松ケ丘自治会では要援護者の登録と、安否確認訓練を実施しています。また、住民全員が参加することを目指した「総参加防災訓練」をはじめました。全住民が参加することで、近隣に住む人同士が顔見知りとなり、いざというときに助け合える環境づくりを行っています。

自治会館をまち普請事業で改修

自治会館をいっとき避難場所として整備するために、区の補助金を活用して防災用品を購入し、20人が自治会館に宿泊できるだけの備えをしました。ところが、せっかく購入した備品の保管場所が自治会館にはなかったのです。自治会館は新築したばかりで改修するための資金を調達するのは難しく、このままではいっとき避難場所として活用できないという状況に陥りました。そんな時、「ヨコハマ市民まち普請事業※4」を知り、自治会として一致団結して取り組んだことで、自治会館に収納庫を増築することができました。

※4「ヨコハマ市民まち普請事業」
市民のみなさんが地域の特性を生かした身近な生活環境の整備を自ら考え、つくりあげるための横浜市独自の助成事業です。二回の公開コンテストで選考された提案に対して、次年度に最大５００万円の整備助成金を交付しています。

防災訓練の様子

ものおきっこと名付けられた収納庫

まちづくりプラン

まち普請の応募を通して、防災の課題を洗い出すなかで、地域に慣れない人はどの道を通れば、いっとき避難場所である自治会館や地域防災拠点、広域避難場所に行けるかわかりにくい、という新たな課題が明らかになりました。

そこで、改めて防災の観点から松ヶ丘を見直そうと、2014年に「松ケ丘防災に強い町をつくる会」を発足させました。全住民を対象としたアンケートを実施するなどして、まちの課題を整理し、4本の柱からなる目標を定めた「松ヶ丘まちづくりプラン」をまとめました。

プランを実現するために、施設整備を行いました。まず、避難所までスムーズに辿り着けるように「災害用まちなか案内板」を町内8か所に整備しました。また、既存の掲示板に「避難誘導サイン」を付け加えるとともに、自治会館には災害時の状況を発信する「災害用情報発信板」を整備しました。さらに、階段道路を安全に歩けるように手すりを設置しました。

また、まちをもっと好きになってもらえるよう、道路の愛称を募集して、「自分のまち」という意識を持ってもらうために様々な工夫をしています。ご近所どうしで助け合うという意味をこめた「近助」を実現するために、あいさつ運動や自治会館での催しを実施して、多世代の交流を促してきました。加えて、住宅の一角にまちかどベンチを設置して、コミュニケーションの活性化をはかるなど、近隣の人たちができるだけ顔見知りになり、次のアクションに結び付けることができるような取り組みをしています。

災害用まちなか案内板

まちづくりプランの成果

松ケ丘自治会は、誰かに任せたり、特定の人たちが頑張ったりするのではなく、松ヶ丘全体を一つの地域と考えて、自治会の構成メンバー全員で災害に立ち向かおうとあらゆる準備をしています。その結果、自治会の方々は「行政に頼るのではなく、松ヶ丘で生き抜く覚悟ができた」そうです。

左から 北島前自治会長、南部元自治会長、
冨永自治会長、植松前副会長

まちづくりプランは着実に地域に浸透していて、まちかどベンチで立ち話をする人が増えたり、子どもからあいさつされたり、コミュニケーションは着実に広がっていると自治会の方々は感じています。昨年度は松ケ丘公園にかまどベンチを設置したほか住民から募集した道路の愛称を記した手作りのプレートを町内23か所に設置しました。今年度は初の試みとして自治会文化祭を企画、多くの出展者、出演者そして参観者を得て盛況に開催することが出来ました。

まちかどベンチ

「地域まちづくりプランの認定制度」
地域の目標・方針やものづくり・自主活動など課題解決に向けた取り組みを、地域まちづくり組織が地域住民等の理解や支持を得ながらとりまとめた計画を、地域まちづくりプランとして、市長が認定する制度です。認定を受けた地域まちづくりプランに基づき、地域まちづくり組織は、市が連携して事業推進を図っていくなど、プランの実現へ向けた取り組みを行っていくことができます。

松ケ丘自治会館

持続可能な松ヶ丘を目指す

「防災というと震災のことばかり考えていたが、台風でも電気がとまってとても苦労するのがわかった。課題は尽きないね」と松ケ丘自治会の方々は、さらに先のことを考えています。「外国人も増えているから、外国語での表記も必要だね」、「停電の時には、ハイブリッド車が良い電源になるから、ハイブリッド車が町内にどれぐらいあるか知っておくことも大事だね」など、アイデアや思いが溢れます。「私たちが目指すのは、持続可能な松ヶ丘」という自治会の方々の言葉が納得できる地域です。

防災から広がるまちづくり

本郷町３丁目も松ヶ丘も、丘陵地、狭い道路、坂道、といった防災上の課題を抱えた地域です。これは横浜市の特色でもあり、同じような課題を持つ地域は横浜市にはたくさんあります。この二つの地域では課題の解決を図りながら、多様な活動を展開しています。

「地域で顔の見える関係をつくり、お互いを助け合える土壌をつくること」を基本として、横浜市のあらゆる制度を活用し、地域独自の仕組みや施設整備を実現しています。地域の多くの人たちの知恵を集めてつくった仕組みや施設は、地域の多くの人たちによって運営されています。

本郷町３丁目や松ヶ丘の先進的な取り組みが他の地域にもひろがっていき、地域の防災を担う人たちが増えていくことで、持続可能なヨコハマが実現できるでしょう。